

令和 5 年 6 月 27 日現在

機関番号：32620

研究種目：若手研究

研究期間：2020～2022

課題番号：20K18968

研究課題名（和文）統合失調症患者の就労継続および職場復帰に資する研究

研究課題名（英文）Schizophrenia and work

研究代表者

遠藤 源樹（Endo, Motoki）

順天堂大学・医学部・非常勤講師

研究者番号：60739209

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：22年間で新規に統合失調症と診断され精神科医の診断書にて療養となった労働者は209名で、男性166名、女性39名（性別の欠損値のデータ4名）であった。療養開始時の平均年齢は38.6歳（男性の平均年齢：38.9歳、女性の平均年齢：37.2歳）であった。復職したのは169名で累積復職率は93.0%であった。療養開始日から復職日までの日数の中央値は93日（約3か月）であったが、平均値は185.0日（約6か月）であった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

「統合失調症と就労」に関するコホート研究はわが国では皆無であり、統合失調症患者の病休日数、復職率に関するエビデンスが殆ど無いのが現状であった。これらのデータにより、統合失調症罹患社員の病休制度等の検討資料等、政府の一億総活躍の最重要政策である働き方改革に寄与する、日本初の疫学的知見が得られ、社会に還元することができる。

研究成果の概要（英文）：Over a 22-year period, 209 workers were newly diagnosed with schizophrenia and experienced sickness absence based on psychiatrist's certificate, 166 men and 39 women (4 workers had data on missing gender values). The average age at the start of treatment was 38.6 years (average age for males: 38.9 years, average age for females: 37.2 years). 169 employees returned to work (cumulative return-to-work rate: 93.0%). The median days from the start of sickness absence to the date of return to work was 93 days (about 3 months), while the mean was 185.0 days (about 6 months).

研究分野：公衆衛生学

キーワード：統合失調症 病休 復職

1. 研究開始当初の背景

統合失調症患者の就労支援は今後の日本において、極めて重要な課題である。統合失調症はおよそ 100 人に 1 人弱が罹患する頻度の高い疾患で、発症年齢は 10 歳代後半から 30 歳代で就労世代に少なくなく、人手不足が深刻化している日本の労働社会にとって、統合失調症患者の就労支援は極めて重要である。統合失調症の症状は多彩であり、幻覚・妄想、生活の障害(会話や行動のまとまりが障害される症状、感情の障害、意欲の障害)、病識の障害などが知られ、「普通の話も通じなくなる」「不治の病」という誤ったイメージがある一方、統合失調症患者の多くが回復し、治療と就労を両立できることが少ない。これから益々、統合失調症患者が社会に参加するようになり、統合失調症患者の職場復帰と就労継続は今後、重要性が増していくことが予想されている。2016 年 2 月に、厚生労働省は「事業場における治療と職業生活のためのガイドライン」を公表した。疾病を抱える労働者に対して、適切な就業上の措置や治療に配慮し、治療と職業生活が両立できるようにするための、事業主における取り組みがまとめられている。しかしながら、統合失調症患者の就労実態(平均療養日数、療養となった場合の復職率)に関する日本の疫学研究は皆無であり、学術的にも厚生労働行政上も、統合失調症患者の就労に関するエビデンスが強く求められている。

2. 研究の目的

本研究の目的は、日本で唯一の 22 年間の大規模職域病休コホートデータベース J-SAR (Japan-Sickness Absence and Return to work) スタディのデータを活用して、統合失調症患者の就労に関するエビデンスを集積することである。統合失調症等患者の就労に関するコホート研究は世界初であり、社会にも有益な研究成果が得られることが期待される。

3. 研究の方法

J-SAR Study の病休データベース等を用いて、1990 年 1 月 1 日から 2011 年 12 月 31 日までの年間に、新規に統合失調症と診断され、主治医の「療養が必要」と記載された診断書が提出されて病休を取得した労働者である。統合失調症罹患患者の復職率、平均療養日数などの詳細を明らかにした。統計解析は Kaplan-Meier 生存時間解析、log-rank 検定を使用した。

4. 研究成果

新規に統合失調症と診断され医師の診断書にて療養となった労働者は 209 名で、男性 166 名、女性 39 名(性別の欠損値のデータ 4 名)であった。療養開始時の平均年齢は 38.6 歳(男性の平均年齢: 38.9 歳、女性の平均年齢: 37.2 歳)であった。復職したのは 169 名であったが、累積復職率は 93.0%であった。療養開始日から復職日までの日数の中央値は 93 日(約 3 か月)であったが、平均値は 185.0 日(約 6 か月)であった。男女における復職率に統計学的有意差を認めなかった(log-rank 検定: $p=0.613$)。今後、研究成果を海外の学術誌に英文原著論文として投稿予定である。

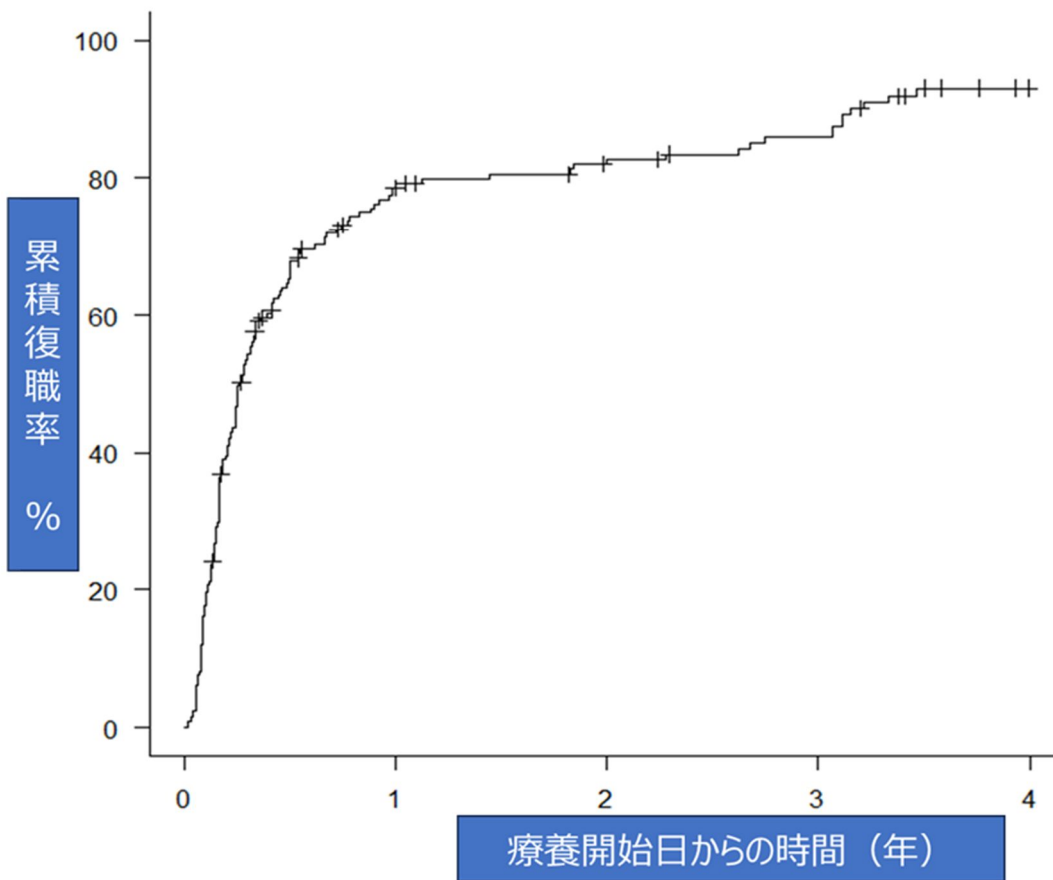


図 統合失調症患者の療養開始日からの累積復職率 (%)

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------